

2 就職状況 大学生の就職率は引き続き高水準を維持

厚生労働省と文部科学省では、平成31（2019）年3月の大学等卒業者の就職状況について共同で調査した結果を公表した。それによると、平成31（2019）年4月1日時点の大学生の就職率は97.6%で、前年同期比で0.4%低下したものの、調査開始以降2番目に高く、引き続き高水準が維持されていることが明らかとなった。

厚生労働省と文部科学省では、新卒者等の就職支援を専門に行う「新卒応援ハローワーク」のジョブサポーター（新卒者等の就職支援を専門とする職業相談員）と、大学等の就職相談員とが連携して大学等卒業者の就職を支援する取組などを行ってきた。本調査を踏まえ、今後についても、未就職のまま卒業した者に対して、引き続き、新卒応援ハローワークと大学等が連携し、継続した支援がなされるよう、努めるとしている。

大学生の就職希望率が過去最高に

調査は、厚生労働省と文部科学省が共同で、10月、12月、2月、4月の年4回、実施・集計しているもの。各大学等で所定の調査対象学生を抽出した後、電話・面接等を通じて就職希望の有無や就職状況等を調査している。調査の依頼先は、両省で抽出した全国112校。対象人員数は大学、短期大学、高等専門学校計5,690人と専修学校（専門課程）の560人で、合わせて6,250人となっている。

調査によれば、平成30年度（平成31年3月）の大学等卒業者において、就職を希望する割合（就職希望率）は、大学が前年同期比0.7%上昇の76.0%

（うち、国公立が同1.6%上昇の55.3%、私立が同0.2%上昇の86.3%）となった。大学の就職希望率（76.0%）は、調査開始以降、過去最高を記録した。

一方、短期大学では、同1.3%低下の82.9%。高等専門学校では、同1.0%低下の62.0%となっている。大学等（大学、短期大学、高等専門学校）の合計は、同0.4%上昇で75.7%となった。また、専修学校（専門課程）は同1.1%上昇の89.5%となっており、これらを合わせた総計は、同0.5%上昇の76.9%となっている。

大学生の就職率は97.6%で高水準

就職希望者に対する就職者の割合（就職率）は、大学で前年同期比0.4%低下し97.6%。このうち国公立大学の就職率は、97.3%（前年同期比0.7%低下）、私立大学は、97.7%（同0.3%低下）となっている。短期大学の就職率は、98.6%（同0.5%低下）となっており、高等専門学校および専修学校（専門課程）の就職率は、それぞれ99.6%（同0.4%低下）、96.6%（同1.9%上昇）だった。

大学等（大学、短期大学、高等専門学校）を合わせた就職率は97.8%（前年同期比0.4%低下）。専修学校（専門課程）を含めると97.7%（同0.2%低下）となっている。

なお、卒業生全体（就職希望者のほか、「進学希望者」、「自営業」、「家事手伝い」等を含む調査対象人員全体）に占める就職者の割合（大学のみ）について見ると、平成31年4月1日現在で74.2%となっている（前年同時期の値は73.8%）。

厚生労働省担当者は、大学生の就職率は、前年（平成30年4月、98.0%）に比べ0.4%低下したものの、一昨年（平成29（2017）年4月、97.6%）と同じであり、「大学生の就職率は引き続き高水準にある」としている。

大学生の就職率は男性97.3%、女性97.8%

大学生の就職率について男女別に見ると、男子大学生の就職率は97.3%（前年同期比0.2%低下）、女子は97.8%（同0.8%低下）となっている。また、国公立大学では、男子が96.7%（同1.2%低下）、女子が97.8%（同0.3%低下）だった。一方、私立大学では、男子が97.5%（同0.1%上昇）、女子が97.8%（同0.9%低下）となっている。

文系・理系別（大学のみ）では、文系の就職率は97.4%（前年同期比0.8%低下）となっている。そのうち、国公立が97.1%（同1.7%低下）、私立が97.5%（同0.5%低下）だった。一方、理系の就職率は98.4%（同1.2%上昇）となっている。そのうち、国公立が97.6%（同1.3%上昇）、私立が99.0%（同1.1%上昇）だった。

最も高い就職率は関東の98.1%

大学生の就職率について地域別に見ると、関東地区の就職率が98.1%（前年同期比0.4%低下）と最も高くなっている。これに近畿（98.0%、同0.6%上昇）、中部（97.9%、同1.6%低下）、北海道・東北（97.2%、同0.2%上昇）、中国・四国（97.1%、同0.3%低下）、九州（95.2%、同2.3%低下）が続く。

（調査部）